

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

#### 地域社会に貢献する、自立した人を育てる高校

地域社会とのつながりや人との出会い、多様な学びを通じて、主体的に学び、自らの人生を切り拓くたくましさを育み、地域社会を支える人づくりをめざす。

##### 【育てたい力】

- 多様な価値観を尊重し、違いを豊かさにして、協働できる力
- 自分の考えを的確に人に伝えたり、傾聴できるコミュニケーション力
- 地域や社会に関心を持ち、参画、貢献しようとする意欲と実行力
- 豊かな人権感覚・人権意識

### 2 中期的目標

#### 1. 新たなステージへの深化

「多様性の尊重」「地域性の重視」を特長とする高校としての実績、強味を最大限生かし「教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む」とする「社会に開かれた教育課程」の理念を追求する普通科専門コースの確立に取り組む。

将来構想検討委員会、カリキュラム検討委員会、専門コース委員会を開催し、普通科専門コースにおけるカリキュラム・教育内容の充実に取り組む。改定版金剛高校トータルステップアッププランの具体化に努める。

新たな学校像が地域の中学校や教育関係者、中学生、保護者に共有されるよう、丁寧で広範な広報活動に取り組む。

#### 2. 確かな学力の育成と進路実現

ア 授業公開、研修、授業アンケート（年2回）、研究授業を連動させ、年間の授業改善サイクルを充実させる。

ユニバーサルデザインを意識した教育環境の整備、わかりやすい授業づくりに取り組む。

「主体的・対話的な深い学び」を追求し、真摯に授業改善に取り組む。

教員のニーズに応じた研修の充実を図る。

教職員の「専門性」の向上「同僚性」の発揮を促進し、「ストレス」の少ない「働きやすい」「働きがいがある」職場づくりに取り組む。

イ 「思考力」「判断力」「表現力」「学びに向かう力」「人と協働できる力」の育成

生徒の興味や関心を喚起し、社会と繋がる意識を育てる課題解決型、探究型の「思考力」「判断力」を育成する授業づくりに取り組む。

普通科専門コースにおける「発表」の機会を「総合的な探究の時間」（2年次）に実施するとともに、3年次の芸術鑑賞や文化祭での発表の機会を通して、「表現力」の育成に努める。

「総合的な探究の時間」やLHR、学校行事を通じて、「自己・他者・社会の在り方⇒生き方・進路に関連付ける」＝「学びに向かう力」や

「協働できる力」を育てる。

ウ 学年の学力生活実態調査結果や定期考査の振り返りを活用し、進路への意識づけ、学習の充実を図る。

学年の進路指導部、学習指導部の連携のもと、早い時期から進路に向けた適切な学習指導を継続的に行う。

「進路実現満足度100%の学校」をスローガンに、進路について考える機会を増やし、丁寧な進路指導・学習支援を通じて、生徒一人ひとりに

とって満足度の高い進路実現をめざす。「進路実現に向けての取り組みを十分にしている」生徒向け学校教育自己診断肯定的評価80%以上

生徒向け学校教育自己診断「系・コースや授業は将来の役に立つ」の項目について90%(H30 84.7%, R1 85.4%, R2 88.9%)をめざし、令和5年度までその水準を維持する。

#### 3. 豊かな人権感覚・人権意識の醸成

ア 学校行事やクラス活動における生徒相互の関わりや協働性を重視し、自尊感情や生徒相互の信頼感を醸成する。

イ 生徒の実態に即した課題を設定し、当事者の話を聴くなど、共感に基づく人権学習を通じて、豊かな人権感覚を醸成する。

ウ 実習や体験、発表、地域活動への参加等を通じて自己有用感や自尊感情を醸成し、道徳感や公共心、ボランティア等社会貢献への意識を育てるとともに、よりよい社会の創り手となる意欲や行動力を育成する。

#### 4. 「ともに学び、ともに育つ」教育、生徒支援の充実

ア 人権教育推進委員会、教育相談委員会、支援教育コーディネーターの連携を密にし、校内の教育相談・支援体制の充実を図る。

高校生活支援カードを有効に活用し、支援の必要な生徒の早期発見、実態把握に努め、必要な支援体制をつくる。

状況把握、経過観察、情報共有に努める。

必要に応じてケース会議を適宜開催し、外部機関や専門家とも連携して、生徒理解を深め、支援の充実に努める。

イ 共生推進教室の取組みの充実を図り、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。

共生推進教室で学ぶ生徒への適切な指導、必要な支援を通じて、自己理解と社会参加への自信、就労への意欲を育てる。

共生推進教室で学ぶ生徒との日常的な交流を通じて、全ての生徒に障がいのある人への理解、共生の意識を育む。

3年卒業時、共生推進教室で学ぶ生徒の就労100%をめざす。(H30 66.6%, R1 100%, R2 100%)

#### 5. 規範意識の醸成と自主性・主体性の育成

ア 遅刻、頭髪、服装、原付、あいさつ、清掃等の指導等、基本的生活習慣やマナーの確立を通じて、社会性を育てる。

イ 部活動加入を積極的に奨励するとともに、生徒会・委員会活動を活性化し、教育活動のあらゆる機会において生徒の自主性・主体性を引き出す。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

ころ [令和3年11月実施分] 数値はR3年度の肯定的評価 < 【 】 内はR2年度の肯定的評価 >	学校運営協議会からの意見
<b>授業改善</b> 「学校は授業改善に積極的に取り組んでいる」 生徒 70.7% 【73.8%】 1年 83.6% 【82.2%】 2年 58.8% 【64.3%】 3年 58.7% 【74.8%】 「授業はわかりやすい。学習意欲が高まる。」 生徒 69.2% 【59.8%】 1年 78.4% 【63.6%】 2年 64.7% 【48.9%】 3年 59.7% 【66.8%】 「授業は静か。勉強に集中できる。」 生徒 72.3% 【77.2%】 1年 83.6% 【82.4%】 2年 66.7% 【72.3%】 3年 61.0% 【76.6%】	<b>第1回 令和3年7月17日</b> ●進路に直結する「わかりやすい授業」できていますか？ ○緊急事態宣言中で、外部へは授業公開していないが、先生同士で 授業公開をして研鑽している。生徒1人1台端末が導入されれば、さらに授業改善が進むと見ている。 ●「わかりやすい授業」生徒59.8% 教員92.8% (R2学校教育自己診断)。この差は？ ○主体的・対話的で深い学びは少し弱いと授業観察して感じている。授業のUD(ユニバーサルデザイン)化が進めば「授業の狙いを示し、振り返りをする」ことになる。その行為の積み重ねで差が埋まるはず。授業アンケート結果がでて、教諭にも返却したところ。課題がありそうな授業は引き続き観察し、わかりやすい授業を提供する。 ●教科で話し合いはできている？ ○固定の時間を作っているわけではないが、各教科それぞれで話し合いは頻繁に行われている。 ●生徒に学習評価の基準を伝えると、「わかりやすい授業」項目における肯定率の差(生
<b>学校の満足度</b> 「金剛高校に満足している。」 生徒 79.5% 【85.0%】 1年 90.3% 【90.5%】 2年 82.3% 【74.5%】 3年 67.2% 【89.4%】 「系・コースや授業は将来の役に立つと思う。」 生徒 89.1% 【88.9%】 1年 97.4% 【96.0%】 3年 84.9% 【83.7%】 3年 80.6% 【86.7%】	

## 府立金剛高等学校

**安全で安心な居場所、クラスづくり**

「クラスやクラブは一人ひとりが大事にされ話しやすい。」  
 生徒 83.1% 【84.7%】 1年 89.8% 【83.5%】  
 2年 78.8% 【82.7%】 3年 76.4% 【88.1%】  
 「先生は問題を見逃さず親身に相談に応じてくれる。」  
 生徒 74.5% 【80.4%】 1年 81.3% 【85.6%】  
 2年 71.9% 【72.4%】 3年 67.4% 【83.0%】

**人権問題への理解、社会的課題への関心**

「人権を学ぶ機会と人権問題への理解。」  
 生徒 92.7% 【89.5%】 1年 97.3% 【98.7%】  
 2年 100% 【79.5%】 3年 86.5% 【88.9%】  
 「総合等での新しい社会的課題を学ぶ機会があった。」  
 生徒 68.8% 【80.1%】 1年 72.4% 【82.5%】  
 2年 70.6% 【68.9%】 3年 66.2% 【87.5%】  
 「HR や発見（総合）で生き方や将来を考える機会があった。」  
 生徒 88.8% 【90.8%】 1年 95.1% 【97.3%】  
 2年 94.1% 【87.1%】 3年 81.3% 【87.5%】  
 ☆3年間の人権意識の変化を比較した「人権意識調査」（3年）  
 a 「人権に関心を持っている。」  
 3年次 85.4% 【77.3%】 ← 入学次 81.5% 【73.9%】  
 b 「自分を大切にす気持ちが高まった。」  
 3年次 78.9% 【77.5%】 ← 入学次 77.8% 【74.7%】  
 c 「人間関係の大切さを学んだ。」  
 3年次 92.8% 【92.7%】 ← 入学次 95.8% 【95.4%】  
 「差別的な言動を見聞きした時、どのような態度をとるか。」  
 d 『差別を指摘して話し合う。差別はいけないと伝える努力をする。』  
 3年次 48.0% 【41.9%】 ← 入学次 45.4% 【49.7%】  
 e 『何もせずに黙っている。』  
 3年次 10.8% 【15.2%】 ← 入学次 13.1% 【17.0%】

**進路指導**

「進路について学校は必要な情報や機会を提供している。」  
 生徒 88.0% 【92.4%】 1年 92.5% 【93.7%】  
 2年 88.2% 【89.6%】 3年 83.2% 【93.7%】  
 「進路相談やHRなどで熱心に進路指導している。」  
 生徒 76.6% 【82.4%】 1年 79.6% 【85.6%】  
 2年 78.8% 【74.5%】 3年 73.2% 【86.5%】

**生徒指導**

「学校生活全体の指導は適切である。」  
 生徒 71.1% 【78.4%】 1年 80.2% 【84.2%】  
 2年 63.6% 【74.6%】 3年 62.3% 【76.3%】  
 「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切である。」  
 生徒 63.2% 【64.0%】 1年 74.5% 【68.3%】  
 2年 67.6% 【61.0%】 3年 50.2% 【62.7%】

**学校行事・部活動・生徒会**

「学校行事（体育祭・文化祭・修学旅行など）は楽しく行えるよう工夫」  
 87.9% 【92.6%】  
 「学校は部活動に積極的に取り組んでいる」81.1% 【81.3%】  
 「生徒会・委員会活動は活発である」77.8% 【76.4%】

**<結果と分析>**

今年度の最重点課題は、COVID-19 感染防止対応の安全安心な学校づくりであった。昨年度から引き続きコロナ禍にあって、金剛高校の特長を堅持しながら、教育課程の実施、できる限りの行事の実施、自主活動の充実を図った。重点課題としては、年度当初に定めた3点、①オンライン授業の実施、②観点別評価への準備③自主性・主体性の育成である。全体としては昨年度と同程度の肯定的回答を得ている。

**授業改善**

肯定的回答が大きく上昇したのが「分かりやすい授業」の項目であり、昨年度の最重点課題であった授業改善の効果が表れたものと理解している。加えて9月には1人1台端末を配布、活用したことも反映され、重点課題①オンライン授業の実施が達成できた。

**学校の満足度**

全体としては8割の肯定的回答を得ているが、修学旅行が中止となった40期生では満足度が7割弱とやや低めとなった。

**安全安心な居場所・クラスづくり**

「先生は問題を見逃さず親身に相談に応じてくれる」の肯定回答が減少して75%である。生徒に寄り添える時間を増やす工夫が必要。

**進路指導**

昨年度の3年生に比べ肯定回答が10ポイント程度減少した項目が、「進路情報の提供83%」「進路相談指導73%」である。しかしながら、同集団での2年次からの変化を見ると「進路情報の提供」5ポイント減、「進路相談指導」1ポイント減と減少幅は少ない。3年次での進路指導体制のさらなる充実を図り、入学期生による差がないように「金剛の進路相談指導」として高い肯定率を維持するための努力が必要。

**生徒指導**

「学校生活全体の指導は適切である」について7割を超える肯定率であるが、2年生3年生で昨年度と比べ10ポイント近く減少している。数値的に測れるもののみではないが、総合的に見て、学年進行につれ、厳しめの指導への肯定率が下がる傾向にある。

**学校行事**

「学校行事（体育祭・文化祭・修学旅行など）は楽しく行えるよう工夫」の肯定率が5ポイント減少した原因としてコロナ禍により体育祭・文化祭

徒59.8% 教員92.8%）両者の約30%の差は埋まってくるかも。

○UD化（ユニバーサルデザイン化）で目当てと振り返りの可視化と共有を進める。

●特に振り返りの時間を丁寧に。

○中学では、授業のUD化（ユニバーサルデザイン化）を進めているが、振り返りの時間が取りにくい。はじめは効果がなさそうでも続けていけば結果が出てくる。

●わかりやすい授業≠生徒がわかっているかどうか、ではない。生徒がわかったことの結果として、客観的なテストの点数も気にしてほしい。

●個人によってわかったという感覚は差がある。どうやって支援するかも考えよう。

●教える側のメタ認知が重要。多忙ななかだが、授業改善研修もできれば。

●学習支援サービスの感想をお願いします。

○苦手分野に関して、オンラインで出題する週末課題はできている。動画を見る課題は、見るだけになってきている人も居る。動画視聴の結果、理解した事をノートにまとめることをさせる必要があるかも。効果は2学期の2回めの到達度テストで判断。

●金剛の生徒は、大人ができて当たり前のができていて、よい。遅刻も少ない。ただし、雨天時などの保護者の車で送迎は、近隣として交通の点で気になる。

●外国ルーツの生徒も在籍するので、多様性教育の充実を期待する。

○国際交流協会から学校運営協議会委員をお迎えしている。お知恵を請う。

●富田林市はSDGsや若者支援を推進している。金剛の活動にも取り入れてほしい。

●学んだことを発信したり行動したりすることで、多様性が育まれるはず。

●クラブ加入率は、例年に比べて低いですか。

○緊急事態宣言のせいで去年よりは低いが、これからまだ増えると思う。

●府立高校の統廃合が進んでいる。そんな中で金剛は頑張っている。人気がある。今後も期待している。

**第2回 令和3年10月16日**

○進路実現の取り組みについて説明。

●就職希望が少ない理由は？求人数が減っているのか？

○求人数は減っていない。たくさん来ている。希望者自体が少なかった。

○大学・短大の指定校枠も 総計460人をオーバーするほど、たくさん来ている。

●オンライン授業の取り組みについて教えてほしい。

○1人1台端末を9月に配付して、学習支援クラウドサービスを活用しながら、コロナによる学校休業時だけでなく、普段からの授業、自宅学習にも活用している。

●南河内の特色を取り入れた授業や活動を新カリの授業で取り入れられないか？

○2年生の科目「時事社会」に加え、次年度は3年生にも「発展時事社会」を開講する。生徒に人気の科目。社会的課題に主体的にアプローチする態度を養う。今年度も富田林市生涯学習課と連携して授業公開したり、市が主宰する若者会議の説明を受けたりしている。

●1人1台端末や学習支援クラウドサービスは非常に便利。対面授業でも有効活用してほしい。

●共生推進教室について、昨年度の定員割れの原因は？

○やはり、コロナで十分な広報活動ができなかったことが影響している。今年度はきめ細かに早期から広報している。

●共生推進教室の卒業生で、地元の企業につとめている人の声を発信するなどすれば、金剛の共生推進教室の魅力が伝わるはず。

●コロナ禍の各種学校行事についてはどうか？

○体育祭、文化祭と保護者が来られなかったのは、生徒も残念がっていたが、行事自体を達成できたことには生徒は、たいへん満足していた。感想の一部を挙げると、  
 体育祭→団活動活発。上手に後輩を率いて行事を終えられた。3年生が優しい。

文化祭→食品の取扱いとバザーができなかったが、企画は多様化した。アンブレラスカイ（生徒会企画）も好評。

●体育祭、文化祭には、PTAから2人ずつ参加。私は文化祭に参加。コロナ対策の限られた中で非常に工夫された企画が多かった。生徒のマナーもよかった。来年度は保護者（特にPTA役員）は参加できるようにしてほしい。

●学校運営協議会で高校での生徒（近隣の中学校卒業生）の活躍を聞いて良かった。中学校ではタブレットを活用している。

●生徒は「やらされる教育」より「自ら学ぶ教育」を望む。生徒の興味がわく仕掛けを用意しましょう。コロナで制限はあるが、地域とのかかわりをより強めて教育活動に活かしたら、より良くなるだろう。

**第3回 令和4年2月7日 書面開催**

●昨年に引き続きコロナ禍で先生も大変だったと思う。管理職が知恵をだして、現場の先生方を大事にして、子ども達によく教えていただけるようにして今年度も乗り越えてほしい。

学校教育自己診断結果より

## 府立金剛高等学校

での保護者入場をやむなく見送ったことなどが要因として挙げられる。

自主活動では、特に、「人権について学ぶ機会があり、人権問題が理解できるように工夫されている」について、2年生で上昇がみられ、肯定的回答が100%であった。本校の核となる人権問題の学習や総合的な学習の時間については、臨時休業によって時間の確保が困難な中、教職員の尽力により高い肯定的評価 92.7%を堅持している。生徒たちの持つポテンシャルを引き出せたと言える。

一方、「新しい社会的課題を学ぶ機会がある」については、肯定的回答が68.8%にとどまった。3年次の授業について新しい社会的課題を学ぶ機会はあるが、その時期や定着の状態について検討する。

また、本校が大切にしている地域連携についても、感染防止のために、中止となり、数値が下降しているが、今後は状況を見ながら、復活させていきたい。

●学校教育自己診断で教職員の満足度 91.1%と生徒の満足度 79.5%との差が例年に比べても大きい。原因としてあげられることは何か。また、何か具体的な対策を考えているか。  
○コロナの影響で授業が受けられない生徒もいるが、オンラインを活用することで生徒には授業内容を配信することができている。ただ、対面での授業ができていない分、生徒に満足感が出てこない可能性はある。特に3年生の差が大きくなっているが、修学旅行が開催されなかったことなども影響していると思う。本校の特色として地域へ出たの実習などがあげられるが、生徒もそれを楽しみにしていることが多い。コロナ禍のなか、実施できていないことも満足できていない要素になっている。対応策としてさまざまな工夫をしているが、生徒が満足できる内容をこれからも検討し続ける。

●生徒のために何ができるのか？考えてほしい。金剛高校に保護者も期待を寄せている。

●進路指導について保護者も前向きで期待している様子が伝わる。自由記述で「情報提供してほしい」「個別に話し合える機会を多めに取って頂きたい」とあるので、もう少し丁寧に対応してはどうか。

●教室での服装について、換気で寒いのに防寒具を脱ぐ事について複数の意見があったが。  
○学校教育自己診断後、すぐに対応を協議し教室内で防寒上着の着用可となった。

●生徒への指導に根拠があり、納得が得られれば良いと思う。

#### 人権問題への理解、社会的課題への関心について

●学んだことを行動に活かすことは大切ですが難しい。その場合、必要と思うことは2つあって、一つは、事実を正確に把握すること。できればその現場に出向く、見て、聞いて、感じて自分の力でしっかり知ること。もう一つは、自分の意見や感覚を安心して話せる環境や仲間の存在。共感してくれたり、ときに（優しく自分を認めてもらいながら）間違いを指摘してくれたりする仲間や先輩、先生の存在が自分を鍛えてくれます。共に行動してくれる仲間、間違っていたら「激励の喝」をくれる心の大きな先輩や先生の存在。金剛高校は、その両方を得られる場と思います。

更に欲張れば、他人の痛みなどを理解し共感できる想像力を養うこと。これには環境整備が大切だと思います。その点もよくなされていると思います。

あとは、どしどし、場を積むこと。生徒さんは成長する力は十分に備わっていると思います。地域の人間としては、「場を積む」に貢献したいのですが……。少しずつやっていきたいものですね。

#### 授業改善、主体的・対話的で深い学びについて

●学年が上がるごとに授業は難しくなって、生徒や先生の思うようにならないものです。生徒と先生が共に考えて、具体的で明確で身近な（叶えやすい）目標設定をしながら学習への意欲づけをすることが大切でしょう。みんながみんな大谷翔平のような出来の良い大人な高校生ではありません。大人でも、上手に目標設定をしてやることで業績が上がるようです。少しずつですけどね。

#### 環境について

●環境が子どもを育てるので、校内美化は大切。

#### 学校経営計画について

●令和4年度の計画は、教職員がそれに向かってやる、より具体的に示せる取組みを設けてはどうか？

○了解。特に令和3年度未達成だった（△）評価の項目について改善する具体的取組みを令和4年度の計画に設ける。

●令和5年度にむけて「めざす学校像」【育てたい力】の二つめの文言修正をしてはどうか？（修正案）「傾聴し、それをふまえて自分の考えを的確に人に伝えるコミュニケーション力」

○令和4年度第1回の学校運営協議会にて対面で協議し、令和5年度計画に向けて検討していく。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2 年度数値]	自己評価
1. 新たなステージへの深化	「多様性の尊重」「地域性の重視」を特長とする高校としての実績、強味を最大限生かし「社会に開かれた教育課程」の理念を追求する普通科専門コース再編に取り組む	将来構想検討委員会、カリキュラム検討委員会、専門コース委員会を開催。 普通科専門コースにおける、カリキュラム、LHR・総合の計画、行事等の精選など、教育活動の充実を図る。	将来構想検討委員会等現在及び金剛高校の将来像に対する肯定的評価が多数を占めること。 教職員向け学校教育自己診断 「教育活動を振り返り改善に向けて取り組む」90%以上 [86.4%]	コロナ禍の影響が、より一層深刻となるなか、学校内では教育課程をほぼ実施することができた。このことは、生徒のがんばりと教職員の並々ならぬ努力により実現したところである。ただし「ゆとり」を持って教育活動を振り返ることは困難であったと思われる。 肯定率 (85%) (△)
2. 確かな学力と進路実現	ア わかりやすい授業づくり	ア. 授業改善サイクルの充実を図る。年2回の授業アンケートだけでなく、生徒との対話を通じて授業改善に努める。 授業改善研修の充実。 授業公開、各教科での研究授業の実施。 「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業改善。 教員間の授業交流による授業改善の促進。	ア. 生徒向け学校教育自己診断 「わかりやすい授業」60%以上 [59.8%] 「学力を伸ばす工夫」69%以上を維持 [69.7%] 「授業が静かで集中できる」77%以上を維持 [77.2%]  「生徒の学力向上に熱心な先生が多い」65%以上を維持 [65.2%] 「授業改善に積極的」73%以上を維持 [73.8%]  教職員向け学校教育自己診断 「わかりやすい授業」92%以上を維持 [92.8%] 「学力を伸ばす工夫」92%以上 [92.8%] 「お互い協力し合う」78%以上 [78.2%] 学校全体のストレスチェックが基準値を越えない。 [108]	ア 授業改善の効果が出ている。 肯定率 (69.2%) (◎)  肯定率 (72.3%) (◎)  肯定率 (72.7%) (△) 進路決定後、静かな集中が途切れる教室があり、対応を検討する。  肯定率 (67.6%) (◎)  肯定率 (70.7%) (△) オンライン授業本格開始の初年度で試行錯誤した点が肯定率に反映された。次年度は改善が見込める。  肯定率 (97.7%) (◎) 肯定率 (95.5%) (◎) 肯定率 (80.0%) (○) 基準値: 102 (126) (△) 受検率が53%と低いため、改善する。
	イ 「思考力」「判断力」「表現力」「学びに向かう力」「人と協働できる力」の育成	イ. 「主体的で対話的な深い学び」を意識した課題解決型・探究型の授業を実施し「思考力」「判断力」を養う。 「総合的な探究の時間」での発表や、行事の中での学びを通して、「表現力」「人と協働する力」を養う。 エリア・コースでの学習の充実を図り、「総合的な探究の時間」、LHR、学校行事を通じて「学びに向かう力」「人と協働する力」を育成する。	イ. 生徒向け学校教育自己診断 「系・コースの授業は将来の役に立つ」88%以上を維持 [88.9%] 「HRや「発見」などで、生き方や将来について考える機会がある」90%以上維持 [90.8%] 芸術鑑賞アンケート 「芸術鑑賞を通じて、文化祭などでの表現力に生かすことができるか」70%以上を維持 [R1 81.0%]	系・コース選びのガイダンス機能を充実させ高い肯定率を維持する。 肯定率 (89.1%) (○) 肯定率目標 90%以上は高すぎる設定で2ポイント弱、届かなかった。目標の下方修正も検討する。 肯定率 (88.1%) (△)  コロナ禍のため、芸術鑑賞を実施できず。 (一)
	ウ 地域と連携しての交流、体験学習学習成果の発信	ウ. 特色ある授業や取組みでの地域の学校、施設、団体との交流、体験を継続、推進する。 生徒の成長や学習成果を地域に発信する。 発達と保育 : 保育所での実習 保育音楽 : 保育所交流 進路指導部 : 幼稚園交流 社会福祉基礎 : 福祉施設との交流 手話・点字 : だいせん高等聴覚支援との交流 地域コミュニケーションコース : 障がいのある人との交流 保育所交流	ウ. 生徒向け学校教育自己診断「授業や部活動で他の学校や地域の人々と関わる機会」60%以上 [59.8%]	ウ 感染拡大が一段落している間に積極的に地域へ出かけた成果が現れている。 だいせん高等聴覚支援学校との交流は、オンラインにて行った。  肯定率 (60.3%) (○)
エ 進路に向けた意識の醸成	エ. 各学年の進路指導部と学習指導部の連携を軸に生徒情報や進路課題を共有し、1年次から、進路を考えさせるキャリア教育に取り組み、進路に向けた意欲を育てる。	エ. 生徒向け学校教育自己診断 「進路に必要な情報や機会の提供」90%以上を維持 [92.4%] 「進学講習や校内模試等進路実現の取り組み」80%以上を維持 [81.9%] ・「進路相談やLHRでの熱心な進路指導」80%以上 [82.4%]	エ 肯定率 (88.0%) (△) 肯定率 (78.8%) (△) 肯定率 (76.6%) (△) 入学期による差が出ているため「金剛の進路相談指導」体制を確立し、3年次の進路指導体制の充実を図る。	

府立金剛高等学校

<p>3. 豊かな人権感覚の醸成</p>	<p>ア 生徒相互の関わり、協働性の重視 自尊感情や相互の信頼感を醸成する人権学習、総合学習、学校行事</p>	<p>ア. 新入生オリエンテーション（1年）、クラス スタートアップ、個人面談、遠足に至る年度当 初クラスづくりを通じて、安心感のある高 校生活を支援する。 行事等のクラス活動を通じて、生徒相互の 関わりや協働性を育てる。</p> <p>イ. 生徒の実態に即し、当事者との出会いや体 験等、生き方を考えさせる人権学習、総合学 習を企画し、実施する。 校内教職員人権研修の更なる充実。校外人 権研修への参加促進。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断 「金剛高校に満足している」80%以上を維 持 [85.0%]</p> <p>「一人ひとりが尊重され気軽に話せるク ラス」 80%以上維持 [84.7%]</p> <p>イ. 生徒向け学校教育自己診断 「人権問題の理解」85%以上 [89.5%] 「社会の新しい課題を学ぶ機会」80%以上 [80.1%]</p> <p>人権意識調査（3年次）再掲 a「人権に関心を持っている」 b「自分を大切に作る気持ちが高まった」 c「人間関係の大切さを学んだ」 「差別的な言動を見聞きした時の態度」に ついて d『差別を指摘し話し合う。伝える努力を する』 e『何もせずに黙っている』 という5項目の1年次からの a～d は増 加、e 減少を目標に取り組む</p>	<p>ア学校教育自己診断分析欄に分析を 記載。 肯定率（79.5%）（△） 体育祭、文化祭への来場者自粛などコ ロナ禍の制限が影響と分析。次年度は 満足できる環境を積極的に用意する。 肯定率（83.1%）（◎）</p> <p>イ 肯定率（92.7%）（◎） 肯定率（68.8%）（△） SDG s 等、社会の新しい課題につい ての教職員研修を次年度に計画する。</p> <p>a～d の項目に関して1年次から3年 次を比較すると5項目中、3項目が増 加（3年次←入学次 a85.4%←81.5%、 b78.9%←77.8%、d48.0%←45.4%） してよい効果をあげている。項目 c に 関しては、（3年次←入学次 c 92.8% ←95.8%）とやや減少しているが、数 値自体が高く、減少が課題を示してい るとは考えにくい。</p> <p>項目 e に関しては、1年次から3年次 を比較すると（3年次←入学次 10.8% ←13.1%）と減少しており、よい効果 をあげている。 以上から金剛高校での人権教育は概 ね効果をあげたといえる。（○）</p>
<p>4. 「ともに学び、ともに育つ」教育、生徒支援の充実</p>	<p>ア 生徒の実態把握 ときめ細やかさや 支援、指導</p> <p>イ 共生推進教室の 教育内容の充実、と もに学びともに育 つ教育の推進</p>	<p>ア. 生徒支援カード（1年生）の情報を学年会 議、教育相談委員会で共有し、支援の必要な 生徒の早期の発見、実態把握に努め、必要に 応じた支援体制をつくる。</p> <p>イ. 教育相談委員会、人権教育推進委員会で生 徒状況の経過観察を行い、学年と協議の上 必要に応じてケース会議を開く。外部機関 や専門家とも連携して、支援にあたる。 共生推進教室の生徒についても、共生推進 コーディネーターと密に連携し、必要に応じ て適切な支援、ケース会議の開催を行う。 たまがわ高等支援学校と連携して、共生推 進教室の生徒一人ひとりの教育的ニーズを 把握し、適切な指導や必要な支援を行う。</p> <p>ウ. 本校で学ぶすべての生徒に共生推進教室の 意義を周知し、「ともに学び、ともに育つ」 教育を推進する。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断 「問題を見逃さず相談に応じてくれる」 80%以上を維持 [80.4%]</p> <p>イ. 教育相談委員会、人権教育推進委員会の コンスタントな開催。その中で、配慮や 支援が必要な生徒、同和地区出身生徒、外 国にルーツを持つ生徒等の状況確認。支援 が必要なケースに関しては校内関係部署 及び外部機関との適切なケース会議の開 催。</p> <p>ウ. 共生推進教室の生徒が安全で安心し て学校生活を送る。</p> <p>・不登校や長期欠席がなく、いじめなどの 人権侵害事象がない。 ・共生推進教室の生徒が、クラス活動、学 校行事に積極的に参加し、周りの仲間と温 かい関係を結ぶことができる。 ・卒業時の就労先の開拓を行う。</p>	<p>ア. 肯定率（74.5%）（△） 問題の把握と相談がより効果的に行 われるよう生徒に寄り添う。</p> <p>イ. 教育相談委員会、人権教育推進委 員会を通して、状況確認、校内関係部 署による支援、外部機関との連携を行 った。共生推進委員会を通して以下を 行った。 ・外部機関とのケース会議 ・外部専門家チームの派遣を受けた。 教育庁に依頼して取り組んだ専門家 チーム派遣事業が効果的であった。専 門家から継続して助言が頂けるよう、 次年度も職員研修の講師として招く ことにした。（○）</p> <p>ウ. 共生推進教室の生徒が、クラス活 動、学校行事に積極的に参加し、周り の仲間と温かい関係を結んでいる。 ・不登校、長期欠席、いじめはなかつ た。 ・すべてのクラス活動、学校行事に共 生推進教室の生徒が参加した。 ・卒業時の就労先について、公的機関 も利用しながら開拓を行った。（○）</p>

## 府立金剛高等学校

5. 規範意識の醸成	<p>ア 基本的生活習慣の確立</p>	<p>ア. 生徒指導部と学年が一体となって遅刻、頭髪、服装、原付等の指導を行う。あいさつ、特に朝のあいさつの励行を全教員で推進する。</p>	<p>ア. 年間遅刻者 600 件以下を目標に取り組む [496 件]</p> <p>生徒向け学校教育自己診断 「学校生活全体の指導は適切か」75%以上を維持 [78.4%]</p> <p>「遅刻頭髪、服装、原付等の指導は適切か」60%以上 [64.0%]</p>	<p>ア. 年間遅刻者 1 年 125 回、2 年 169 回、3 年 201 回 (495 回) (◎)</p> <p>肯定率 (71.7%) (△) 学校生活全体の指導については、コロナ関連の指導も含まれており指導を徹底する事で生徒の負荷が増えた。次年度は半期ごとに指導の振り返りを行い適切な負荷で高い肯定率をめざす。</p> <p>肯定率 (63.2%) (◎) 平常時の指導に関しては、目標肯定率を超えている。</p>
	<p>イ 部活動の促進及び生徒会活動の活性化</p>	<p>イ. さまざまな機会を通じて、新入生への部活動への参加を積極的に推進するとともに生徒会執行部を中心に生徒会活動を活性化させる。学年、部活動におけるリーダー育成を意識した関わりの促進。</p>	<p>イ. 生徒向け学校教育自己診断</p> <p>「学校は部活動に積極的」80%以上 [81.3%] 「生徒会・委員会活動は活発」75%以上 [76.8%]</p>	<p>イ. コロナ禍にも関わらず、例年通りの高水準を達成できた。</p> <p>肯定率 (81.1%) (○) 肯定率 (77.8%) (◎)</p>